

クルーズサマリー

1. 航海情報

- (1) 航海番号： KM22-10
- (2) 使用船舶： かいめい
- (3) 航海名称
海溝型巨大地震断層大規模 3 次元調査
- (4) 首席研究者
新井 隆太 (海洋研究開発機構)
- (5) 課題代表研究者
P22-09_2_3 三浦 誠一 (海洋研究開発機構)
- (6) 研究課題名
P22-09_2_3 海底震源断層の高精度広域調査：地震探査および地殻活動観測
- (7) 航海期間
2022/08/10 - 2022/09/08
- (8) 出港～帰港
横須賀港 JAMSTEC 専用 1 号棧橋 - 横須賀港 JAMSTEC 専用 1 号棧橋
- (9) 調査海域
南海トラフ

2. 調査概要

本航海 KM22-10 は、海洋研究開発機構の中長期計画（3）海域で発生する地震及び火山活動に関する研究開発の（1）サブ課題「海域観測による地震発生帯の実態把握」のための部署目標（1）I.-②「巨大地震・津波の発生源として緊急性や重要性が高い海域を中心に三次元地殻構造や地殻活動、断層物性、地震活動履歴等に係る調査」の一環として、部署実施項目として定めた「南海トラフ等重要海域においては、断層の複雑な形状や断層付近の各種物性を三次元的に捉える」ことを目的とした調査である。調査海域である熊野灘から遠州灘は、1944 年昭和東南海地震の発生域であり、その浅部において微動や超低周波地震等のスロー地震が頻発している。2004 年には沈み込むフィリピン海プレートないで M7 クラスの地震が発生している。これら多様なプレートすべり様式を規定する構造要因を明らかにするため、本航海では、南海トラフに直交した 2 測線に YK22-14 航海で設置した海底地震計向けにエアガン発振（2 次元屈折法探査）を実施した。また、潮岬沖から遠州灘においてプレート境界断層の形状や物性を広域にわたって 3 次的に把握するため、18 本の南北測線において反射法地震探査を実施した。さらに、DONET 2F 周辺海域において、海底下観測

監視装置の設置候補点を選定するための事前調査として、南北 6 測線、東西 1 測線の計 7 測線において反射法探査を実施した。